

昭和49年度 和歌山県文化功労賞

しの はら し ろう
篠 原 四 郎

住 所：和歌山県東牟婁郡那智勝浦町

出 身 地：岐阜県

生 年：明治31年

◎業績及び経歴

大正15年国学院大学道義科を卒業後、各地の宮司を勤められ、昭和29年熊野那智大社宮司となる。

それ以来熊野詣で知られた熊野三山の研究にとりくまれた。

昭和44年には、「熊野大社」を刊行、同46、47年には熊野那智大社古文書一・二巻を刊行されるとともに、那智叢書全23巻のうちの12巻を執筆されたが、その中でも第五巻那智経塚が注目される。

昭和44年には、「熊野古道旧跡顕彰歩く会」を結成、春と秋に古道を散策、現地で史跡や伝説の紹介のほか、珍しい動植物の解説まで行い、和歌山県文化の振興と普及に尽くされている。

昭和45年には、県文化財保存会副会長、昭和47年には、県立博物館協議会委員、那智勝浦町町史編纂委員に選ばれ、史跡保存と自然愛護のほか観光開発に尽くされた功績も大きい。